

## 山東大学看護学生を迎えて

2010年10月25日から11月1日まで、中国の山東省済南市にある山東大学の医学生3名と看護学生5名を迎えました。

本学部には海外の大学から教員や学生を迎える際にいつも感心するのは、歓迎の意を表わすために本学部学生自治会が中心になって、多くの学生たちが手作りで校舎を飾ったり、ボランティアで交流行事を企画・運営したりしてくれることです。授業や実習、クラブ活動などで多忙な中、夜遅くまで学内に残って学生たちが作る飾り付けはいつもみごとです。茶道部もお茶会を開き、海外からのお客様を繊細な和菓子とおいしい抹茶でもてなしました。「茶の湯になにか深いものを感じました」という引率の山東大学の先生からの感想は、学生たちの意が通じたようで、うれしいものでした。

山東大学へは今年の2月に、本学部の現在の2年次生5名を派遣しました。そのため彼らは、今回来訪の山東大学の学生さんたちとも顔なじみで、休日の一日いっしょに京都に出かけて、名所旧跡を案内しました。

山東大学の学生さんたちは附属病院を見学したり、特別養護老人ホームを訪問したり、特別講義を行ったりと、多忙なスケジュールをこなしていましたが、本学学生との交流という点では、「教養セミナー」への参加が特筆すべきものとして挙げられます。「教養セミナー」は5名程度のグループと教員1～2名からなり、ディスカッションを中心に進める1年次生の授業です。山東大学看護学部の学生さんそれぞれが、全部で5つのグループに入りました。彼らはこのような少人数クラスは経験がないととても驚き、本学部の学生は英語や中国語を交えながら意見交換を楽しみました。

交流のハイライトは、なんとといっても自治会主催の「お好み焼き・焼きそばパーティー」です。これは、本学部がタイのマヒドン大学と交流を始めたとき以来、海外からお客様をお迎えするたびに調理実習室で行う恒例行事です。いっしょに食事をするだけでなく、食事を作る過程にも参加してもらうことで、主客一体となり、国境を軽々と越え、和気あいあいと楽しい一時を共有することができます。今回は、焼けたお好み焼きの上に、引率の山東大学の先生が突然、ソースのチューブから「日中友好」の文字をじつにみごとな達筆で絞り出されました。実はこの先生は書道の師範だとのことでしたが、中国と日本の外交関係に不協和音が聞こえてくるような昨今の状況のなか、とても粋でお洒落なはからいだと思いました。このパーティーの様子は、下の2枚の写真をごらんください。楽しい雰囲気は少しでも伝わるでしょうか？

最後になりましたが、海外との交流でいつも縁の下の力持ちとして、空港への送迎や宿舎と大学の間毎日の送迎、その他、目に見えない多くのところでご尽力くださった事務の方々に深く感謝いたします。

(保健看護学部 西村賀子)



本学部学生が調理実習室のホワイトボードに描いた歓迎メッセージ  
↓「お好み焼き・焼きそばパーティー」の様子

